

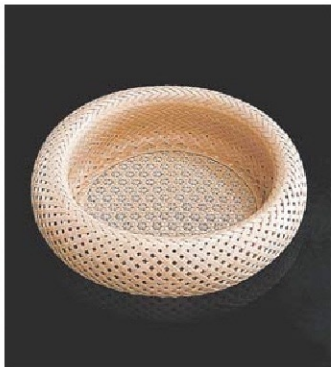
店の歴史や思い出を語り合う本多さん(左)と桑田さん＝  
京都市中京区・「喫茶 あんのん」



# 喫茶閉店マスターへ感謝展

## 木屋町で35年営業 常連客企画

京都市中京区木屋町で35年間営業し、今月に閉店する喫茶店を会場に、店の常連客らが3日からイベントを開く。「最後の日まで盛り上げたい」と、伝統工芸品の展示会を企画した。親のように慕うマスターへの感謝の気持ちを込めて、思い出の詰まった店内を彩る。



会場で展示される竹細工作品の一つ＝本多さん提供

閉店するのは木屋町通三条下ルの「喫茶 あんのん」。繁華街のど真ん中で、1979年の開店以来、毎年訪れる外国人観光客や、学生時代から30年以上たっても「たいたい」と来店する客などファンが多かった。マスターの桑田賢二さん(65)が、趣味の時間など第二の人生を楽しもうと、5日に店を閉めることを決めた。

イベントを企画したのは、同社社大1年からの常連で、障害者支援事業所を運営する同区の本多和憲さん(31)。桑田さんに夕食をこちそうしてもらったり、仕事や結婚の相談をしたことなど、思い出は尽きない。閉店の一報を聞き、何か恩返しをしようと、展示会を提案し、準備をしてきた。

## あすから工芸品展示

展示会は、本多さんが商品開発などに協力している伝統工芸士の支援会「ラナイ」(右京区)が主体となって行う。「ホテルのロビーのような落ち着いた空間」をイメージした店内で、竹細工や織物の作品など約50点を並べる。3～5日の午後1時～9時で、1ドリンクの注文が必要となる。

本多さんは「マスターは神奈川から移り住んだ私の京都の父であり、兄のような存在。いつも帰ってくる場所だった」と振り返る。桑田さんも「ここに来てくれた客とのつながりが財産だとあらためて思った。幸せだった35年間の新たな門出を楽しく盛り上げてもらいたい」と多くの来場を心待ちにしている。

(宇都寿)